

6月 ICCCBE2018 国際会議(タンペレ) 参加報告

(International Conference on Computing in Civil and Building Engineering ;土木建築のコンピュータ利用国際会議)
2年に一度世界持ち回りで開催。今回はフィンランドにて開催。

1. 日時:平成 30 年6月5日(火)~7日(木)

2. 会場:フィンランド タンペレ市のタンペレホール

3. 参加者

JACIC より、6名 門松 理事長、河内 康(e-bisc)、影山輝彰・荒川裕也・山本裕世
(以上研究開発部)+依頼出張の八巻悟(元 JACIC 職員)



4. 会議参加の目的3つ

1)建設情報分野における世界最大の国際会議に参加し、情報収集する。 JACIC は 10 年前より毎回参加している。

2)論文参加すると同時に、国際会議の場でのプレゼンテーションを行う。

—今回は、影山・荒川・山本・八巻の4人が分科会でのプレゼンテーション(12分+質疑2分)を行った。

2)理事長が AGCEI ボードミーティングに参加して 2019 年の ICCBEI 仙台についての協議を行う。

この国際会議の関連会議でアジア版と言える「ICCCBEI (International Conference for Civil and Building Engineering Informatics)は、アジア各国の教授たちで AGCEI というグループを作って主催しているが、そのメンバーが多く今回の世界会議にも参加するため、この機会を捉えて、現地でミーティングを行う。AGCEI ボードメンバーの JACIC 理事長は、これに参加する。

5. 会議の概要

○参加者;全体で約 240 名、日本を含めたアジア各国・地域から、またイギリス・カナダ・オーストラリアの常連も参加して地域的な偏りは特にないが、2年前の大阪大会より少ない参加規模。また論文数 270 を 130 本にするという速報、毎回 査読は厳しくなっている。

特に今回は議長交代のためではないかという話もあり。

○スポンサーに RAMBOL など2社のみ。毎回のスポンサーに比べて非常に少ない。

○各日の朝に基調講演、その後午前、午後にパラレル・セッション。(6人ずつ各テーマ別に)

○基調講演は、初日はトリンプル社のペイブ・プンティア部長の、 BIM の将来について
及び イスラエルのラファエル・ザック教授 BIM と人工知能。
2日目はスイスのイアン・スミス教授 インフラの管理

○JACIC4人のプレゼンテーション

発表者	テーマ(内容)	
影山輝彰	鋼橋三次元モデルと数量拾いに関するCIM	2日目
荒川裕也	次世代の情報化施工ソフト開発	2日目
山本裕世	CIM のダム適用性について	2日目
八巻 悟	低入札を防ぐ積算システムのモデル開発	1日目



影山氏のプレゼン状況

6. AGCEI ボードミーティング

6月5日(火)17:15～ 会場内の場所を借りて実行。 中国の馬先生、台湾の謝先生、オーストラリアのワン先生、タイのベラサック先生、シンガポールのチャン先生、日本の矢吹先生・蒔苗先生・門松理事長を加え、5ヶ国7人で開催。(韓国・香港は欠席。)

決定事項: 2019年の第4回ICCBEI(来年11月仙台にて開催予定)について、詳細を協議。開催場所は仙台メディアテック、アブストラクトの提出は12月末。本論文の提出は3月末に。参加料は400 \$を想定すること。初日のプレナリーでJACIC セッションを開催予定 等。



以上